



松葉小学校・松葉コミュニティセンター

使用団体との対話結果報告



目的

現在、松葉小学校と松葉コミュニティセンターを拠点に活動する団体との対話を通じて、活動実態の把握、要望事項、将来の活動展望等を把握し、跡地活用方針策定の参考とする。また、現在松葉小学校を使用する団体については、松葉小学校閉校後(令和9年4月以降)の使用に関する市の考え方を伝え、各団体の次年度以降の不安を払拭し、活動代替場所等の確保の参考としていただく。

対話団体

- ① 松葉コミュニティセンター活動推進協議会
- ② 元気サロン松葉館
- ③ 土日祝に松葉小学校を使用する活動団体(グラウンド・体育館)

グラウンド

- ・ 龍ヶ崎ハリケーンズ
- ・ 北竜台ダイヤモンドズ
- ・ 龍ヶ崎フットボールクラブ

体育館

- ・ 龍ヶ崎ドルフィンズ
- ・ 松葉ミニバスケットボール
- ・ 松葉卓球クラブ
- ・ 翔龍館
- ・ 龍ヶ崎ハリケーンズ
- ・ 龍ヶ崎フットボールクラブ

別紙「松葉・長山地区の現状と課題」により市が概要を説明し、各団体と個別に対話を行いました。

ポイント

- ✓ 松葉・長山地区ともに顕著な少子高齢化が見られる。
- ✓ 一斉に分譲開始となったことから、一挙に空家が増加する可能性がある。
- ✓ 松葉小学校・コミュニティセンター・公園を一体で再整備する案がある。
- ✓ 松葉小学校グラウンドには、令和11年4月に竜ヶ崎保健所が移転予定。
- ✓ 市では、松葉・長山地区の再生に向けた施策の方向性として「多世代共生」「子育て・教育環境の充実」「既存ストックの有効活用」を掲げている。
- ✓ 跡地活用により、「まちのにぎわい」や「地域課題の解決」を図りたい。
- ✓ R7に実施したアンケート結果の概要説明。
- ✓ 閉校後の体育館・グラウンドは閉校後も引き続き使用可能。ただし、保健所移転工事に伴いグラウンド使用には制限がかかる。
- ✓ 元気サロン松葉館は閉校後も引き続き使用可能。将来の展望として、松葉コミュニティセンターに元気サロン松葉館機能を統合することも検討している。
- ✓ 松葉コミュニティセンターのリニューアルを検討している。新築・改修は未定だが、いずれの方法であっても、自治会・市民活動の場は切れ目なく確保する。

日 時：令和8年6月14日（日）11：00～

場 所：松葉コミュニティセンター 多目的室

参加者：松葉コミュニティセンター活動推進協議会約10名

対話内容

●使用団体 ○龍ヶ崎市

- 現在の施設は全体的に狭く、特に調理室はそう感じる。新長戸コミセンは使いづらさを感じるので、新たにコミセンを新築するのであれば、利用者の意見を設計段階から反映してほしい。
- コミセンの調理室は稼働率が低い。調理室が必要なのかを含めて議論する必要がある。
- コミセン建替は、どの程度の規模を想定しているか。
- 元気サロン松葉館機能を統合した、規模が大きいコミセンを整備する場合、現在のコミセン約500㎡と元気サロン松葉館約500㎡を踏まえると、合計1,000㎡程度が目安になるものと考えている。
- 新しいコミセンには太陽光発電・蓄電池・井戸などを整備し、防災拠点として整備してほしい。
- 事業のスケジュールを示してほしい。
- 10年も経てばコミセンの利用者層は大きく変化する。若い世代の意見を取り入れる必要があると思う。
- 元気サロン松葉館とコミセンの活動実態はほぼ同じ。機能をコミセンに統合する案は良いと思う。
- 新しいコミセンは、平屋、2階建てのどちらを想定しているか。2階建ての場合、高齢者と子どもがそれぞれ使える空間構成も考えられるのではないかと。2階建てにするなら、高齢者や障がい者のためにエレベーターを設置してほしい。
- 子どもたちが自由に集まり、遊び・勉強できる場所、子育て世代も気軽に集まれる場が必要だと思う。長山コミセンの「ここくれば」は良い取り組みである。
- コミセンは高齢者のための施設になりつつある。新たなコミセンではそのイメージを一新したいと考えている。例えば、RINKのような誰でも気軽に使える空間とし、世代を超えて利用できるような機能を整備することも視野に入れている。

自由意見

- 若い世代が地域に定着しない理由として、子育て支援や交通環境、小児科不足などがあるのではないかと。
- 跡地活用委員会の中でも、子育て環境の充実に関する議論は多い。特に、松葉小PTAからは小児科設置を求める声は大きい。
- 若者・子育て世代が戻らない・定住しない理由として、流山などと比べると交通利便性・子育て支援で見劣りしている。
- 都内と龍ヶ崎市では財政事情が全く違うため、龍ヶ崎市がそこに張り合うというのは現実的に難しい。公的支援も大切だが、豊かな自然環境の中で子育てがしやすいことを根気強くPRしていくことが大切と考えている。
- 空家についてはどのように考えているか。
- 松葉地区でも空家が増えているという実情は把握している。一方で、空家となった物件の不動産売買等も堅調に進んでおり、一定の定住需要はある。建物付きまたは解体後の更地を購入し、そこに住宅を新築した事例が多い印象がある。
- 築40年を経過した家が多く、経年劣化もみられる。建替えをして定住するというのが現実的かもしれない。
- 松葉地区は周辺の緑や公園環境が地域の魅力なので、新しいコミセンでも自然とのつながりを活かしてほしい。
- 跡地活用アンケートでも自然環境への満足度は非常に高い。自然環境を維持しながら施設整備を進める方向で考えている。

日時：令和8年3月18日（水）10：00～

場所：元気サロン松葉館

参加者：元気サロン松葉館クラブ・サークル代表者 約17名

対話内容

●使用団体 ○龍ヶ崎市

- 元気サロン松葉館機能を統合した、規模が大きめのコミセンを整備することもある。元気サロン松葉館機能と松葉コミセンの使用状況を踏まえると、広めの多目的室を複数設け、可動式の間仕切りで柔軟に対応することも検討している。
- 平屋にすることや、現状より広く整備することは理解できる。しかし、今後10年ほどで、元気サロン松葉館利用者がさらに高齢になり、利用者は今がピークで、短期間で減少する可能性を危惧している。
- 松葉館は太極拳や元気アップ体操などで使用する場合、現状、手狭である。閉校後体育館を使用できるのであれば、コミュニティセンターを拡張しなくても広い空間で複数団体が同時に活動できると考えている。
- 体育館を残すかどうかは決まっていなかったが、活用の方向性が出るまでの間は使用可能と考えている。
- 閉校後は、奥の空き教室を広げて活動場所を広げることが可能か。
- 空き教室を拡張して利用するには、用途変更による法令適合工事が必要になり改修費用がかかる。そのため、活動場所を広げることが難しいと考える。

自由意見

- 災害時にコミュニティセンターは福祉避難所に指定されているため、小さいお子様を持つ方などにとっては、多目的室のみの構成では不十分である。また、体育館には冷暖房がないため、夏冬の利用が現実的に難しいと思う。

調査時点：令和8年4月
(情報提供：松葉小学校)

土曜日

	7:00～	8:00～	9:00～	10:00～	11:00～	12:00～	13:00～	14:00～	15:00～	16:00～	17:00～	18:00～
グラウンド		龍ヶ崎ハリケーンズ										
体育館		龍ヶ崎ハリケーンズ							MATSUBAミニバスケットボール			
			龍ヶ崎ドルフィンズ									

日曜日

	7:00～	8:00～	9:00～	10:00～	11:00～	12:00～	13:00～	14:00～	15:00～	16:00～	17:00～	18:00～
グラウンド		龍ヶ崎ハリケーンズ										
		北竜台ダイヤモンドズ						龍ヶ崎フットボールクラブ				
体育館		松葉卓球クラブ		翔龍館			龍ヶ崎フットボールクラブ					



各使用団体の活動状況や課題・要望等の掘り下げを行うため、市が各団体と日程調整をし、個別に対話を行った。

期 間：令和8年5月下旬～6月上旬

場 所：松葉小学校グラウンド、松葉コミュニティセンター

参加者：①龍ヶ崎ハリケーンズ、②北竜台ダイヤモンドズ、③龍ヶ崎フットボールクラブ

対話内容

●使用団体 ○龍ヶ崎市

- グラウンドで保健所移転工事が始まった場合、
 - ①②松葉小での活動は難しい。 ③引続き松葉小での活動可能
- 保健所移転工事はいつ頃から始めるか。
 - 夏頃から始まると聞いている。
 - 代替場所としては、他校のグラウンドの紹介はできるが、貸出は学校長判断となる。
- 使用できるのであれば長山中学校のグラウンドが望ましい。①②
- 長山小学校に活動場所を移すことも考えたい②
 - 閉校後は校庭に雑草等が増えるため、その点はご了承いただきたい。（全団体了承）
- 現在小学校に設置している団体の倉庫はどのようになるか。①②
 - 跡地活用が始まるまでは、そのまま残置いただいても構わない。
 - 平日使用も可能になるがその意向はあるか。
- 平日使用は考えていない。（全団体）
- 長山中学校を使用できる場合は、倉庫を設置することは可能か。
 - 長山中学校との協議による。
 - 次年度以降のスケジュール調整を行う会議を年明け頃に設ける。その際は管財課から連絡する。

自由意見

- ・松葉地区は豊かな自然環境が魅力。私自身、それが移住する決め手となった。
- ・松葉地区は「高齢者のまち」になってしまったので、若い世代が住みたくなるようなまちに転換しなければならない。
- ・野口啓代さんがいるので、もっとボルダリングでまちを盛り上げて良いのでは。
- ・最近市はニュースポーツに力を入れているが、中途半端な気がする。
- ・子どもたちは、閉校することには納得しているが、土日の活動の場が無くなることには納得していない気がしている。
- ・今の子どもたちが一度都内に出て、家庭を持つタイミングで良い思い出が残る松葉に戻ってくるという仕組みができれば良いと思う。そのためには、今住んでいる子どもたちが松葉に魅力を感じてもらうことが重要。

期 間：令和8年5月下旬～6月上旬

場 所：松葉小学校体育館、松葉コミュニティセンター

参加者：①龍ヶ崎ドルフィンズ、②MATSUBAミニバスケットボールスポーツ少年団、③松葉卓球クラブ
④龍ヶ崎ハリケーンズ、⑤龍ヶ崎フットボールクラブ、⑥翔龍館

対話内容

●使用団体 ○龍ヶ崎市

- 跡地活用の方向性が定まるまでは体育館の使用ができるとのことだが、どれくらいの期間を想定しているか。
- 目安にはなるが、少なくとも閉校後2年程度は使用できると考えている。
- 保健所移転工事による体育館使用への影響はあるか。
- 直接の影響はないが、工事初期は体育館脇の駐車場を工事車両が通行することがある。
- 北竜台学園の小学校体育館を使用できる可能性はあるか。
- 空調が設置されている小中学校の体育館は北竜台学園だけであり、当面は部活動等で活用する予定もあると伺っている。使用できる可能性はあるが、学校との協議が整っていないため、詳細は未定である。
- 体育館に扇風機は残るか。
- 学校と協議する。
- 体育館の更衣室を学校の計らいで物置として使用している。閉校後も使用できるか。
- 使用可能である。
- 平日昼間の使用も可能である。使用の意向はあるか。
- 会員に意向を確認する。（③のみ。他団体は活用意向なし）
- 次年度以降のスケジュール調整を行う会議を年明け頃に設ける。その際は管財課から連絡する。

自由意見

- ・卓球は風の影響を受けるため、締切りで行う。これからの暑さを考えると空調機が設置された体育館で活動がしたい。③
- ・小学生～高校生が集う場所や小児科がほしいという意見をよく聞く。特に中高生の居場所、市役所付近のRINKのような施設があれば良い。学校施設の一部を学びや交流施設に転用することも可能ではないか。
- ・周りには中学受験する子が多く、大体が龍ヶ崎市駅周辺の学習塾に行く。1箇所小さい塾はあるが、学習塾があると子育て世代にとって魅力的である。
- ・仕事の関係で松葉地区を出て、戻ってきた。はじめは賃貸で戻り、その後に戸建て住宅に住んだ。松葉地区は賃貸住宅が極端に少ないため、子育て世代の呼び込みを考えると、賃貸住宅というのもアリだと思う。
- ・アンケート結果内、跡地活用に求めるものの1位「商業施設」は理解できない。商業施設はいらない。
- ・数年前に市外から松葉に引越してきたが、龍ヶ崎市は子育て支援が弱い。さんさん館があるが、3歳までという制約は厳しすぎる。高校生くらいまでの子どもたちが集まれる空間がほしい。せめて、長山のここくればのような。
- ・松葉第三児童公園は学童ルームから近いこともあり、放課後は込んでいる。安心して遊べる場所がほしい。

松葉小学校グラウンド・体育館使用団体

- ・ 保健所移転に伴うグラウンドの形状変更や面積減の状況では、野球やサッカーのように広くグラウンド使用する団体の活動は難しい。
- ・ 使用団体の1番の関心事は、令和9年度以降に使用できるかであり、次年度以降も引き続き使用できることに対して安堵していた。
- ・ グラウンド使用団体は、長山小学校や北竜台学園などを代替場所として使用したいと考えている。
- ・ 将来的に市が跡地活用の方向性を定めた場合、活用内容によってはグラウンド・体育館が使用できなくなることについては、やむを得ないと捉えている。
- ・ 体育館使用団体は、空調設備のある体育館や快適な活動環境を求めている。できれば、北竜台学園の体育館使用を希望している。
- ・ 若い世代が戻ってきたくなくなるようなまちづくりを望む意見が多い。
- ・ 小学生～高校生が遊び・学べる空間は、子育て世代にとって魅力的に感じる。
- ・ 子育て支援や居住環境の充実が地域活性化につながるとの意見がある。

松葉コミュニティセンター・元気サロン松葉館

- ・ コミュニティセンターは新築、できれば平屋を望む声が多い。
- ・ 利用者の意見を反映した施設整備を行ってほしい。
- ・ コミュニティセンターと元気サロン機能の統合には一定の理解がある。
- ・ 各団体では、将来的に高齢化が進み、利用者が減少することを懸念している。
- ・ コミュニティセンター利用者のほとんどは高齢者のため、こどもの居場所などを設置した、多世代が利用できる施設を求める声が多い。
- ・ 若い世代や子育て世帯が住みたくなくなるまちへの転換を期待する声が多い。
- ・ 緑豊かな自然環境を活かした施設整備・跡地活用への期待がある。
- ・ 防災対策として、避難所機能のほか、停電対応や給水体制を求める声がある。

コミュニティセンターの防災機能を強化し、元気サロン機能を統合。現在よりも規模が大きい施設を新設。

コミュニティセンター・公園・遊歩道を一体で再整備することで、様々な世代が自然に集う空間を創出。（公園の位置付けは変わらず）

松葉第三
街区公園
約3,300㎡

コミュニティセンター
約3,000㎡

遊歩道を再整備することで、通学路の安全確保や夏祭り会場としての活用等も視野に検討。

民間活用ゾーン
約21,500㎡

緑豊かな住宅地という特性を尊重しつつ、にぎわいの創出、生活利便性の向上を図り、まちの価値をさらに高める。

若者・子育て世代の定住につながる、魅力的な提案を民間事業者に求めていく（詳細はこれからの協議）。

保健所用地
約5,600㎡

コミュニティセンターのイベント等で集客が見込まれる際は、保健所の駐車場利用について柔軟に対応。

保健所の業務効率、アクセス面を考慮し、市道に面する場所に立地。まちなかへの移転を契機に地域に親しまれる保健所を目指す。